



未来をひらく

【特集】令和元年度に教育委員会が行う主な取組み 2・3面

北九州市教育大綱

～SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成～

I 北九州市の未来を担う子どもの姿

- ◎本市に誇りをもつ子ども
- ◎新たな価値創造に挑戦する子ども
- ◎自立し、思いやりの心をもつ子ども

II 市全体で子どもの教育を支える5つの柱

1. 新たな時代を切り拓く力の育成

- (1) SDGsの視点を踏まえた教育の推進
- (2) グローバル化に対応する英語教育の推進
- (3) 超スマート社会を見据えた教育の情報化推進

2. 本市が誇る文化芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進

- (1) 「東アジア文化都市2020北九州」をはじめ、文化芸術に触れる機会の充実と人材の育成
- (2) スポーツに触れる機会の充実と人材の育成
- (3) 本市ゆかりの先人や伝統文化など、地元の誇りとする文化を継承する取組みの推進
- (4) 地元企業などと連携・協力したキャリア教育

3. 市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進

- (1) 家庭や地域とともにある学校づくりの推進
- (2) 企業や団体、大学、NPO等と連携した取組みの推進
- (3) 家庭、地域や関係機関等と連携した防災・安全に係る取組みの推進

4. 一人一人に寄り添った「誰一人取り残さない」子どもへの支援

- (1) 障害のある子どもへの支援
- (2) いじめ、長期欠席等へのきめ細かな対応
- (3) 児童虐待の防止
- (4) 子どもの貧困対策

5. 「働き方改革」の推進

- (1) ワーク・ライフ・バランス実現に向けた社会全体での取組みの推進
- (2) 教員が子どもと向き合う時間を確保し、生き生きと充実して仕事ができる環境づくり

令和元年5月9日

北九州市長 北橋 健治

令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの5年間

[3] 大綱の期間

学校教育を中心に、市全体の視点を踏まえて、文化やスポーツ、福祉などのうち、子どもの教育に密接に関係する分野

[2] 大綱の対象

この大綱は、本市教育行政に関する目標や基本方針を定めるもので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、総合教育会議における教育委員会との協議・調整を経て市長が定めるもの

[1] 大綱の位置づけ

平成27年11月に定めた北九州市教育大綱の期間が終了したため、令和元年5月9日、北九州市総合教育会議において、新たな教育大綱が策定されました。今後は、大綱の方針に沿って、教育に関する取組みを進めていきます。

新・教育大綱の策定 (総合教育会議の開催)



全国高等学校 女子ソフトボール選抜大会

3月16日から19日まで佐賀県佐賀市で行われた第37回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会に北九州市立高等学校女子ソフトボール部が出場し、準優勝という輝かしい成績を収めました。



決勝戦	兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校 (兵庫県)	5-1	北九州市立高等学校
準決勝	北九州市立高等学校	3-2	金沢高等学校 (石川県)
4回戦	北九州市立高等学校	1-0	清水ヶ丘高等学校 (広島県)
3回戦	北九州市立高等学校	2-1	帝京安積高等学校 (福島県)
2回戦	北九州市立高等学校	5-0	茨城県立下妻第二高等学校

霧丘中学校特別支援学級「reconnect project」が、環境首都北九州SDGsアワードESD表彰優秀賞等を受賞しました!

霧丘中学校特別支援学級の取組み「reconnect project」が、「第1回 環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」最優秀賞、及び「第13回SYDボランティア奨励賞」優秀賞を受賞しました!



これは、西日本豪雨被災地支援ペットボトル募金活動や、手作りはちみつレモン販売、アメリカの学校との交流など、これまで同学級が行ってきた、



生徒と社会との「つながり」づくりの取り組みが、環境や人づくり、ボランティアの活動として、評価されたもので、生徒の社会参加をさらに進める、「自信」につながるものと思われまます。

【特集】令和元年度に教育委員会が行う主な取組み

教育の情報化推進

教育用タブレット端末の整備

これからの子供たちに必要な「情報活用能力」を育成するため、ICTを活用した学習環境の整備が必要です。

この一環として、教育用タブレット端末と無線LAN環境を整備し、調べた情報の集約やプレゼンテーションなど、グループ学習での活用を見込んでいます。

令和元年度は、まず中学校と特別支援学校に配備を行い、導入効果等を見ながら、小学校への拡大も検討します。



令和元年度予算額 1,920万円



学力・体力の向上

一部教科担任制の推進 ～北九州市立小学校16校でスタートしました～

1 実施の概要

中学校のように教科ごとに担当の先生が異なるシステムを小学校高学年の一部の教科で実施しています。

2 期待される子どもへの効果

- 子どもたちの良さを複数の先生の手で発見することが可能となります。また、良さを様々な方法で伸ばすことにもつながります。
- 複数の先生が関わるため、学校生活の悩みを話したり、相談したりできる窓口が広がり、不安を和らげることにつながります。
- 中学校のように教科ごとに担当の先生が異なるシステムへのスムーズな移行につながり、中学校入学への不安の軽減につながります。

3 教員の働き方改革としての効果

- 授業の準備を行う教科数が少なくなります。
- 授業準備や教材研究などを行う時間が増えます。
- 子どもにかかわる先生が増え、チームで対応できます。

上記により、授業の準備やテストの採点、より深い教材研究を行う時間が増えます。また、他の教員の授業を見ることで、授業スキルを向上させることが期待できるため、子どもの学びの質の向上に繋がります。



▲担当教科の授業を複数のクラスで行います。



▲空いた時間を活用して授業の準備などを行います。

6年1組の月曜日の時間割イメージ

1	国	6年1組の学級担任です。6年全学級の国語を担当	A教員
2	社	5年2組の学級担任です。5・6年全学級の社会を担当	
3	理	理科の専科指導教員です。5・6年全学級の理科を担当	
4	算	6年2組の学級担任です。6年全学級の算数を担当	
5	外	外国語の専科指導教員です。3～6年全学級の外国語を担当	
6	体	6年3組の学級担任です。5・6年全学級の体育を担当。中学校から赴任した体育科教員です。専門性を活かした授業と中学への円滑な接続をサポートします。	

働き方改革

A教員 社会・理科・算数・外国語・体育の授業は他の先生が行うため、授業の準備の負担が大幅に減ります。専科指導教員が一部の授業を担当することで、週に5時間の空き時間が生まれました。

北九州市学校応援基金の創設

学力・体力の向上や豊かな心の育成、教員の資質向上等の課題の解決に向けた取組みを応援するために北九州市学校応援基金を創設しました。

本基金の目的に賛同する篤志家からの寄付金とその利子を原資としています。今後、広く地場企業や市民の皆様の寄付を募っていきます。

特別支援教育の充実

特別支援教室(校内通級)の実施

通常の学級に在籍している軽度の障害がある児童は、必要に応じて他校に設置された通級指導教室で特別な指導を受けています。

通級指導教室での学習は、個々が抱える困難さを改善・克服する上で有効ですが、他校の通級指導教室まで保護者が送迎しなければならないことや移動中は在籍学級での授業を受けることができないこと等の課題があります。

そこで、児童生徒が在籍校に設置された特別支援教室で、巡回指導教員から「自立活動」の指導を受けるという、新しい「通級による指導」(校内通級)の取組みを各モデル地区・モデル校で始めます。

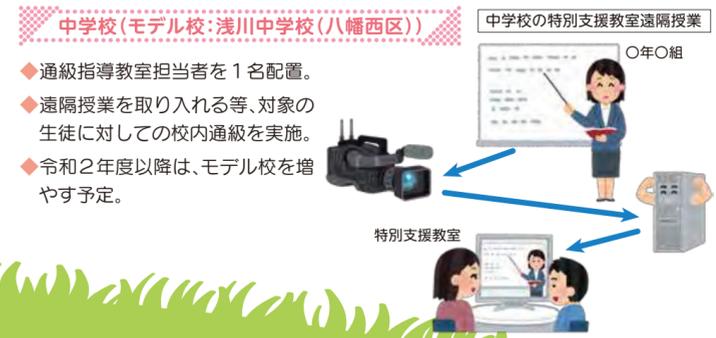
小学校(モデル地区:小倉北区)

- ◆拠点校の清水小学校に巡回指導教員5名を配置。
- ◆小倉北区内の全小学校21校で対象の児童に対して巡回指導を実施。
- ◆令和2年度以降は、準備の整った区から順次実施する予定。



中学校(モデル校:浅川中学校(八幡西区))

- ◆通級指導教室担当者を1名配置。
- ◆遠隔授業を取り入れる等、対象の生徒に対する校内通級を実施。
- ◆令和2年度以降は、モデル校を増やす予定。



安心して学べる環境づくり

スクールソーシャルワーカーの増員

「福祉の専門家」として

不登校や暴力行為など、児童生徒の問題行動等の背景には、児童虐待を含む、児童生徒が置かれた家庭等の環境が複雑に絡み合っている場合が多いです。

そのため、スクールソーシャルワーカー(SSW)は、「福祉の専門家」として、専門的な視点からの助言や家庭への働きかけ、関係機関との連携をコーディネートすることで、児童虐待の防止を含む、児童生徒が抱えている課題の解決を図っています。

今年度は3名増員し、15名の配置を予定しています。



特別支援学校への医療的ケアスタッフの配置

1 特別支援学校への医療的ケアスタッフとは

呼吸や栄養等の医療的ケアが必要な児童生徒が、安心・安全に学校生活を送るために、肢体不自由の特別支援学校に医療的ケアのできるスタッフとして学校配置看護師を配置しています。

学校看護師は、日常的な健康管理、緊急時の医療面における初期対応の他、健康面に関する教員への助言等の業務を担っています。

2 学校看護師の配置状況

- 小倉総合特別支援学校・・・5名
- 八幡西特別支援学校・・・4名

※小倉総合特別支援学校の配置看護師のうち1名は、総合療育センター委託看護師



特別教室へのエアコン設置

子どもたちが快適な環境で学べるよう、小学校の理科室、中学校の音楽室にエアコンを設置します。既に設置されている学校も含め、全ての中学校の音楽室に設置が完了します。

小学校(理科室)・・・10校 7,360万円 中学校(音楽室)・・・47校 4億1,990万円



危険なブロック塀の撤去(フェンス設置)

■事業概要

平成30年6月に大阪で発生した地震によるブロック塀の倒壊事故を受けて全学級・園のブロック塀を調査した結果、「危険」等と判断されたブロック塀を令和元年度中に撤去しフェンスの設置を行います。

小学校	103校	9億8,830万円
中学校	54校	7億4,430万円
特別支援学校	6校	4,670万円
幼稚園	3園	570万円
高等学校	1校	650万円
計	167校・園	17億5,150万円



SDGsの視点に立った地域教材資料集

小学校3年生以上の児童・生徒や保護者が学ぶことができる、SDGsの視点に立った地域教材資料集を作成します。

北九州市の魅力やSDGsの理解を推進し、シビックプライドの醸成を図ります。





新教育長あいさつ

北九州市教育長 田島 裕美

人口減少・高齢化、グローバル化、さらには、AI等の急速な技術革新など、私たちを取りまく社会環境は大きく変化しています。教育現場においても様々な課題に取り組んでいるこの重要な時期に、事務局職員、教職員あわせて約5千5百人を束ねる教育長の職に推挙されたことは、誠に身の引き締まる思いであります。

このように社会変化のスピードが速まる中で、子どもたちには、新たな時代を切り拓くことのできる知識・技能、思考力・判断力・表現力を着実に育成していく必要があります。

また、SDGsの視点を踏まえ、子どもたち一人ひとりに向き合い、さらに、本市の様々な特性を活かした教育を通して、子どもたちにシビックプライドを醸成していくことも重要です。

これまで、教育委員会では、前教育長の下、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に基づいて、各種施策を推進し、学力や体力の向上、文化芸術等に触れる取組みの充実、専門人材の配置によるきめ細かな対応など、様々な成果や前進があったところと承知しています。

一方で、今後、着実に対応していかねばならない新たな課題として、「新学習指導要領全面实施に向けた準備と対応」「教員確保と育成、教員の多忙間解消」「防災・安全教育など子どもの安全への対応」「市民総ぐるみでの子どもたちの支援」「学校施設老朽化対策、教育の情報化等の教育環境の整備」があり、引き続き市長のご理解を得ながら、着実な対応を進めていく必要があります。

さらに、今年度、教育委員会では、今後5年間の本市教育行政の指針となる「次期教育プラン」を策定します。先に述べた社会背景を踏まえた子どもたちの資質・能力の向上、様々な課題の解決に向けた施策等をしつかりと検討して、プランにも盛り込み、関係部局、家庭・地域、企業や団体等とも連携しながら、市民総ぐるみで取組みを進めて参ります。

本市の未来を担う子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に引き出すとともに、学校現場を預かる教職員が、生き生きと充実して仕事ができる環境整備に努め、本市教育行政の更なる発展に向けて、全力を尽くして参る所存です。

中体連駅伝大会速報

平成30年12月16日に希望が丘文化公園（滋賀県）で行われた「平成30年度 全国中学校体育大会 第26回全国中学校駅伝大会」において、「曾根中学校」が以下のとおり素晴らしい成績を収めました。



男子の部



第3位
(57分1秒 大会新)

福原賞受賞式 平成30年度「福原賞」表彰式

「福原賞」は、学校法人「福原学園」を創設された故福原軍造氏のご遺族から「学校の教育に役立てて欲しい。」というご意向でいただいた寄付金をもとに、平成元年に創設されました。

北九州市教育委員会では、本市の小中学生の中で善行やボランティア活動、地域貢献で顕彰すべき行為のあった児童生徒を表彰しています。

- 平成30年度は、
- 全国青年ボランティア・アクションに参加し、東日本大震災被災者復興住宅で食事の提供などの支援活動を行った。(引野中2年女子)
- 体調の悪くなった高齢者を大人と一緒に介抱し、病院まで付き添った。(萩ヶ丘小3年女子5年男子)



- 全校児童に呼びかけて集めた書き損じハガキを、一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン事務局に送付し、役立ててもらっている。(八児小計画委員会)
- 等、表彰基準に合致した小・中学生個人38名と9団体が受賞しました。

平成30年度 杉浦奨学金贈呈式

芸術・文化、学術、スポーツの各分野で優れた成績を残し、将来の北九州市の文化振興の担い手となる人材を育成するため、北九州市文化振興基金及びその運用益の一部をもって、修学資金の一部が給付される「杉浦奨学生」に、平成30年度はソフトボールや柔道、陸上競技、声楽等で活躍している7名(高校生4名、大学生3名)の方が決定しました。

平成4年度に事業を開始して以来、平成30年度までに160名が杉浦奨学生として採用され、過去の奨学生の中には、オリンピック代表や世界大会・アジア大会に日本代表として出場された方、国内外での音楽活動など輝かしい実績を挙げている方などが多数おり、今後の杉浦奨学生も将来の更なる活躍が期待されます。



子ども文化パスポート

子どもたちが、地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間を中心に、北九州市、北九州都市圏、下関市、長門市にある87施設に無料(一部割引)で入場できるなどの特典が受けられるパスポートを、保育所、幼稚園、小・中学校などを通じて配布します。

対象年度中で3歳以上の未就園児や市外の学校等に通う人などパスポートを受け取れない人は、対象施設に来場した際に

申し出ればパスポートを配布します。

各施設をめぐるスタンプラリーを実施し、一定の条件を満たせば、さまざまなグッズが当たる抽選に応募できます。

